



原綿そのものの良さを最大限引き出す

NOCは、オーガニックコットンを扱う国内メーカー中心に正会員9社、賛助会員43社で組織するグループ。有機綿栽培の認証機関、バイオインスペクター（スイス）の品質基準をクリアした、インド産原綿使用の原糸をスイスの紡績業者、リーメイを通じて購入し、テキスタイルから衣料品、寝具、タオルなどの幅広い製品の物作りを行う。

NOCは①原則はオーガニックコットン100%素材の製品だけを取り

扱い、一般綿とは混合しない②化学合成繊維との混織、混編はしない。ただし異種天然繊維（ウール、シルク、麻など）との混織、混編は有機栽培認証のあるものに限り、混用限度を40%として扱う③綿本来の性能以上を求めた化学処理（漂白、化学的染色、捺染、防縮、柔軟等）は付加しない④製品加工工程上、必要とされる化学合成の補助剤は常に最小限を求め（糸の口付け、糊付け等）、ただし完成品にそれらの材料が残留しないよう十分に洗浄する⑤1などの10力条からなる加工基準に基づいて生産し、販売している。

オーガニックコットン流通機構

独自生産基準で市場拡大

100%使い テキスタイルや衣料

日本オーガニックコットン流通機構（NOC）は、有機栽培綿（オーガニックコットン）100%素材をベースに、独自の生産工程基準「NOCエコ加工規準」に基づいた物作りで、市場拡大を図る。

08. 6/16 織研

NOCの加工基準は医療分野でも注目されている。化学物質過敏症を研究対象とする機関を設立した北里大学病院は、NOCの品質基準を「北里スベック」として活用している。

NOCは「オーガニックコットンに対する需要が急激に拡大している。その中で我々は、オーガニック単一綿の素材感を最大限に生かすことを重視する。シックハウスやシックビルが問題視されているなかで、オーガニックコットンの潜在的なニーズを掘り起こすとともに、今後は富裕層を中心とした、よりピュアな

オーガニック製品を求め、マーケットに向けた生産企画や販売戦略をとりたい」（宮崎道男理事長）としている。

オーガニックコットンなどの有機栽培繊維の生産と使用を促進する国際的な非営利団体、オーガニック・エクスチェンジの調査によると、世界におけるオーガニックコットン製品の売り上げは、01年に約270億円だったのが、07年には2162億円規模となり、08年は3790億円、さらに10年には7450億円規模にまで成長する見通しを立てている。